

「南予生物」投稿規定

南予生物研究会誌「南予生物」は、研究発表、情報交換、交流の場としてすべての会員に開かれています。下記の規定に沿って投稿して下さい。

1. 投稿者

著者に少なくとも1名の会員を含むこと。なお、事務局は必要に応じて会員以外にも寄稿を依頼することがある。

2. 投稿内容

本論文：自然史に関する研究報告（原則として四国内の自然史を扱ったものとし、未発表の原著に限る）、
会員通信：自然史に関わる内容を含むエッセイ（自然観察会などの記録、紀行文、自然史教育に関すること、
雑感など）、
図書および新聞記事などの紹介、
その他：編集委員会が適当と認めた内容。

3. 原稿の書き方

以下の順序に従う。

本論文・会員通信：表題、著者名、所属・住所、本文、謝辞、引用文献、図表、図版の説明

その他：表題、著者名、本文、所属・住所

住所は郵便番号を含む。公開可能な電子メールアドレスがある場合は住所の下に書く。著者が複数の場合は、著者の住所の後に代表連絡者氏名を記入する。原稿種別は投稿時に記す。種別は編集委員会により変更を求められることがある。

投稿者の責において、英文表記を付すことができる。必要な場合は著者名と論文タイトルの英文表記を著者の所属、住所の和文表記の後に挿入する。住所及び所属の英文表記も希望する場合はそのあとに続ける。

4. 電子ファイルでの投稿

原稿は電子ファイルで作成し、事務局宛に電子メールで投稿する。文章と図表および写真をまとめて1つのファイルとし、投稿者の名前をファイル名として保存する。原稿はテキスト、MS-WORD および一太郎形式で受け付けるが、ファイルサイズが10MBを越える場合は、PDFファイルに変換して送付する。

5. 原稿の採否、掲載順序および体裁

編集委員会に一任する。編集委員会は著者に対し必要に応じて原稿の改訂を求める。

6. 校正

原則として初校は著者が校正し、2校目以降は編集委員会が校正をおこなう。

7. 別刷

著者にはPDFファイルを配布する。別刷を希望する場合は実費で作成を申し受ける。

8. 字数の制限

原則として研究報告は刷り上がり20頁、エッセイは同10頁以内とする。新聞記事などトピックスの紹介は1件につき本文1200字、図書INFORMATIONは1点につき800字以内とする。

9. 南予生物ウェブサイト (<http://www.cnw.ne.jp/~tuzihaze/index.html>) への掲載

南予生物冊子体に掲載される原稿は、著者の許可を得て南予生物ウェブサイトにも掲載される。最新号の内容は会員以外には冊子体発行より1年ののちに公開される。

10. 原稿の帰属

南予生物冊子体および本会ウェブサイト上に掲載された論文その他原稿のすべては南予生物研究会に帰属する。ただし、写真については各撮影者に帰属する。各原稿の責任著者においては、本会の許可を得て当該原稿中の文章、図表の転載ができる。

1985年3月31日 新規制定

1999年3月1日一部改訂

2006年12月20日一部改訂

2019年12月20日全面改訂

2021年10月30日一部改訂

2023年11月25日一部改訂

原稿作成にあたって

1. 原稿の体裁

- ・原稿は原則としてパソコンまたはワープロを用いて作成する。文字は 12 ポイントで A4 判用紙の片面に横書き (40 字×25 行) し、上下左右に 2.5cm 以上の余白を設ける。いずれも用紙の下にページ番号を入れ、1 頁目から通しの行番号をつける。
- ・文章は「である」調とし、現代仮名づかい、常用漢字により書き表す。エッセイについてはこの限りではないが、文体は統一する。
- ・生物名はカナ書きとし、必要に応じて学名を付す。属、種の学名には下線を引く。初出の学名は属名を略さない (*C. biwae* → *Cobitis biwae*)。図表、図版の表題に用いる学名も属名を略さない。
- ・原則として、分類学的な事情からの表記の必要がない限り、記載者名および記載年の表記はしない。表記する場合も、本文の初出部に限る。

2. 文献の引用

- ・文献の引用は、佐藤 (1994)、Nei (1978)、中坊編 (2000)、(佐藤, 1996; 松沢・瀬能, 2008)、Tojo and Matsukawa (2003)、平田ほか (1996)、(Uchida et al., 1990)、(川那部ほか編, 2002) などとする。
- ・引用文献欄の書き方は以下の通りとする。カンマ (,)、ピリオド (.)、コロン (:) のつけかたに留意。誌名は略さない。文献は著者名のアルファベット順に並べ、同一著者の複数の文献は共著者のないものを先にして年代順に並べる。

- ・[学会誌] 著者名. 発行年. 論文表題. 誌名, 巻 (号) : ページ.

(例)

大原健一・董 仕・谷口順彦. 1998. 仁淀川および物部川水系における DNA 多型によるギンブナのクローン判別とそれらの分布. 魚類学雑誌, 45(1) : 21–27.

Kambhampati S, Charlton R. 1999. Phylogenetic relationship among *Libellula*, *Ladona* and *Plathemis* (Odonata: Libellulidae) based on DNA sequence of mitochondrial 16S rRNA gene. Systematic Entomology, 24: 37–49.

Xia X, Wang L, Nie L, Huang Z, Jiang Y, Jing W, Liu L. 2011. Interspecific hybridization between *Mauremys reevesii* and *Mauremys sinensis* Evidence from morphology and DNA sequence data. African Journal of Biotechnology, 10 (35): 6716–6724.

- ・[書籍 (部分引用)] 著者名. 発行年. 表題. 編 (監) 者名, 誌名. 出版社名, 所在地. ページ.

(例)

長田芳和. 1980. タイリクバラタナゴー純血の危機. 川合禎次・川那部浩哉・水野信彦 (編), 日本の淡水生物 侵略と攪乱の生物学. 東海大学出版会, 東京. 41–51.

Palmer G. 1986. Trachipteridae. Whitehead PJP, Bauchot ML, Hureau JC, Nielsen J, Tortonese E (eds). Fishes of the north-eastern Atlantic and Mediterranean. Volume II. UNESCO, Paris. 729–732.

- ・[書籍 (全引用)] 著者名ないし編 (監) 者名. 発行年. 誌名. 出版社名, 所在地. 総ページ数.

(例)

中坊徹次 (編). 1993. 日本産魚類検索－全種の同定－. 東海大学出版会, 東京. xxxiv+1474pp.

Gommon MF, Glover JCM, Kuitert RH (eds). 1994. The fishes of Australia's south coast. State Print, Adelaide, Australia. 992pp.

- ・[新聞記事等] 紙名, 発行年, 見出し, (掲載年月日)

(例)

愛媛新聞, 1962, 広見川に住みついたアジ, (昭和 37 年 9 月 26 日付け記事)

- ・ウェブページの引用は下記を参照, ウェブページは原則として官公庁等公的なものに限る, ただし事務局が認めた場合はこの限りではない,

(例)

農林水産省, 2016, 「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」の作成について(農林水産省ホームページ: <http://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kankyo/150326.html>, 2016 年 4 月 14 日参照) .

注) 参照する資料の作成年, 更新年が不明なものは基本的に引用しない, やむを得ず引用する場合は引用文献欄には加えず, 下記のように本文中に記述する,

(例)

～とされている(四国西予ジオパークホームページ, <http://seiyo.geo.jp/>: 2017 年 3 月 15 日参照) .

3. 図表

- ・図はA4判用紙1枚につき1点とし, そのまま写真製版できるよう明瞭に描く, 50-75%の縮尺率を目安とする, 図の説明は本文末にまとめて描き, 各図の下欄に図の番号, およその縮尺率を入れる, 生物種の分布調査報告などで調査地点の図を使用する場合, 緯度, 経度および縮尺を図中に記入する,
- ・表はA4判用紙1枚につき1点とし, これを越える大きさの表は分割する, 表は横罫のみで作成し, 一番上は二重線とする, 表のタイトルは表の上に入れる,
- ・写真は白黒, カラーいずれも受け付けるが, カラー印刷を希望する場合は投稿時にその旨別記する, 投稿時の写真, 図はファイルサイズが過大にならないよう適宜調整する, 複数の写真を一頁に収める場合には希望するおおまかなレイアウトを示しておく, 写真の説明は本文末, 図の説明の後ろに付ける,
- ・図表, 写真は本文中におおよその挿入位置を示しておく, 原図, 写真について掲載後に返却を希望する場合は投稿時にその旨記述しておく,

4. その他

- ・原稿が正式受理された時点で, 印刷用ファイルサイズの図, 写真を含んだ最終原稿を保存した CD-ROM または DVD-ROM を送付する, すべてのファイルの合計サイズが 10MB 以内であればメール添付でもかまわない, 最終提出の原稿は PDF 化しない,
- ・その他体裁は最新号に揃え, 詳細については編集委員会に一任する,

5. 備考

- ・「南予生物」を引用する場合の和文および英文スタイルは以下のとおり,
辻 幸一・松田久司, 2021, 肱川水系の魚類相-標本を中心とした記録-, 南予生物, 20: 12-33.
Tsuji K, Matsuda H. 2023. Revision of fishes recorded from the Hijikawa River system in Ehime Prefecture, Shikoku, Japan. NANYOSEIBUTSU, 21: 38-58.

1996 年 12 月 30 日新規制定

2016 年 11 月 30 日一部改訂

2019 年 12 月 20 日全面改訂

2023 年 11 月 25 日一部改訂